



C O D E - J

Department of Civil Design and Engineering - Journal vol.3

富 山 大 学
都 市 デ ザ イ ン 学 部
都 市 ・ 交 通 デ ザ イ ン
学 科 の 学 生 が
発 信 す る 広 報 誌

2020年度・2021年度の 都市・交通デザイン学科を振り返って。



金山 洋一 教授
(2021年度学科長)



CAD 室
(データサイエンス、設計製図など)

都市・交通デザイン学科の取り組み

学科長の金山です。2020年度と2021年度の当学科の取り組みを紹介します。
まず、2020年度は、学科開設(2018.4)から3年目を迎えて1期生が3年次となり、新築した実験実習棟での実験系授業、PBL系授業、実務出身教員による授業などが始まり、4年次に開講される卒業研究を除く1~3年次の全ての授業科目が開講されました。

4月は、新型コロナウイルスの感染拡大期であり、まず、学生のネット環境もきめ細かく確認し、WEB授業が可能な体制を整えました。なお、実際は、2020年度は対面授業やグループワークを比較的多く行い、特に実験系授業は、カリキュラムを柔軟に対応させて全て行うことができました。6月は当学科の特徴である自主プロジェクトの2019年度成果発表会を行いました。どれも興味深い10のテーマについて学生が成果を披露しました。8月のオープンキャンパスは、初のweb開催となりましたが、学科紹介ビデオの作成・公開、皆さんの後輩になるかもしれない高校生に対する説明や質疑応答などを行いました。

夏頃からはインターシップが始まり、次いで学科初の就活がスタートしました。インターシップ情報を提供し、業界説明会を行い、また、公務員希望者へのサポート体制等を整えました。就職を目指す4年生は、社会からの熱い視線を受け、



実験実習棟(地盤・水理実験)



ペーパーブリッジコンテスト
(入門ゼミナール)

企業や国の独立行政法人から次々と内定を頂き、後から選考が始まった国家公務員や地方公務員も内定を頂き始めています。また、2020年度は、全教員が協働して大学院設置の準備と文部科学省の手続きを行いました。来春の1期生の卒業にあわせ、いよいよ大学院が開校されます。

2021年4月、当学科は初めて全学年が揃った年度となりました。4年生は研究室に配属され、卒業研究がスタートしています。また、クォーター制の強みを生かし、3年生の第4タームはほぼ授業がないカリキュラム編成とし、12月から春休みがある3月末まで、留学や社会経験など、様々な活動ができるようにしました。自主プロジェクトは、5月に昨年度成果の発表会を終え、新1年生を迎えて今年度の活動がスタートしています。今年度は、卒業生が世界で認められるようになる当学科教育のJABEE認定に向けた、及び、来春に新設する大学院に向けた取り組みなどを進めます。都市・交通デザイン学科は、今年度も益々バージョンアップしていきます。

PBL型※

講義がいよいよ本格的に展開！

全学横断PBLについて

矢口 忠憲 教授



富山大学では、これからの社会に求められる人材のスキルの一つとして、「学際融合教育プログラム」デザイン思考によるイノベティブな協創力を挙げています。これは全ての学生にとっての必須要件であることから、「全学横断PBL」科目として全学部の学生を対象として夏期集中講義で開講しました。このプログラムは、異なる学部でそれぞれの専門教育を受ける学生達が混在し、テーマに沿って「デザイン思考」によるワークショップを行い、クリエイティブな課題解決を目指すものです。特徴としては、産官学とも連携した協働にあります。社会人の方にも学生たちのグループ加わってもらい「先輩の生活者」としてブレインストーミングしてもらおうと同時に、別に時間を定めて今度は『専門家の立場』で各グループの学生たちとのヒアリングや質問・アドバイスに対応していただきました。これは、集中講義形式でフィールドワークに時間が取れない状況を補い、実感を伴う「共感」ができるよう考えた方法です。

この学際融合プログラムは、次の第3タームで開講される「地域デザインPBL」やその後の専門分野における卒業研究などに応用展開され、大学院でも継続して学ぶことができるカリキュラムが用意されています。

岩田 尚也
(2018年入学)

全学横断PBLを受講して

受講生の感想

地域デザインPBLを受講して

平井 真琴
(2018年入学)

私は2020年に全学横断PBLを受講し、「『コンビニ』でSDGs」をテーマとして、経済学部や、芸術文化学部の学生たちと議論しました。コンビニでSDGsというテーマは非常に漠然としていて、何が課題であるのかを見つけることに苦労しました。というのもSDGs、持続可能な開発目標には17の様々な目標が設定されており、コンビニはこの17の目標の多くに関係を持っていました。ではどのように課題を設定したか、鍵となったのは「共感」です。「共感」については都市デザイン学部の講義で学べるので詳しい説明は省きますが、要するに様々な意見を肯定的に受け止め、そこに各々の考えを乗せていくことです。共感の過程を経て課題の設定が終わると、どのように解決していくのかについて議論をしていくのですが、ここではこの授業の一番の特徴である全学横断、産官学の協働が生きてきました。メンバーが各学部で磨いてきたスキルが存分に発揮され、さらにそこに様々な企業の方の意見を取り入れることで一つの学部、富山大学の学生だけでは生まれないような提案が実現しました。



共感を経て課題の解決方法について
議論しているときのホワイトボード

地域デザインPBLとは3学科が混ざり合ったチーム編成で、地域の課題をテーマにし現地調査やディスカッションを行いながら解決にむけて取り組む授業です。

私の参加したチームは「路面電車の富山大学内延伸への提案」というテーマについて考えました。路面電車の富山大学内への延伸計画は過去にも提案されていたが進展のなかったものであるため難しい課題に感じました。しかし、グループのメンバーで意見を出し合うだけではなく富山大学の学生に向けてアンケートをとり、どうすれば利益が出るか、持続可能な計画にできるかなどを考えました。ポスター発表形式の中間発表では教員や外部講師の方々から厳しくもとても参考になる意見をいただくことができ、より良い提案ができたと思います。

3学科が混ざり合ったチーム編成で課題解決に取り組んだことによって、様々な視点から課題に向き合うことができ今後の研究などに活かせる授業内容であると感じました。

※PBLとは、アクティブ・ラーニングの方法であり、「問題解決学習」「問題解決型学習」「問題基盤学習」などと呼ばれる。実世界で直面する問題やシナリオの解決を通して、基礎と実世界とを繋ぐ知識の習得、問題解決に関する能力や態度等を身につける学習のこと。

教養教育科目

益田 耕佑
(2020年入学)

教養教育科目は先生方の話を聞く授業だけでなく、グループでディスカッションをしたり、何人かでプレゼンテーションをしたりできる授業があるので、他学部や他学科の学生と関われる機会が多いです。昨年度、教養教育科目はコロナ禍の影響でオンライン授業やオンデマンド授業で行った時期と、対面授業で行った時期がありました。私たちが入学してしばらくは一日中家でオンライン授業を受ける日々が続きましたが、zoomを使ったグループワークで少しずつではありますが、友達が増え楽しく授業を受けることができました。



小西 幸笑
(2019年入学)

専門教育科目

この学科では、コロナ禍でも多くの専門教育科目が感染対策（座学はオンラインか席の間隔を開けて密を避ける、実習は少数のグループで対面、など）を行った上で、対面で実施されているので、安心して授業の内容を身につけられたかな、と思います。私が個人的にいちばん面白かった授業は、都市景観デザインです。この授業では、様々な場所の街並みや風景を題材に、そこから景観デザインなどについて学んだ後、自身で考えた空間のあり方を提案、デザインなどについて学んだ後、自身で考えた空間のあり方を提案、デザインの作成、発表までを行いました。受けた講義は同じでも、その模型の作成、発表までを行いました。受けた講義は同じでも、それぞれの提案する内容がそれぞれ違って面白かったし、他の人の考え方を知ることで自分の成長にも繋げることができました。また、模型を作るのが初めての人もいましたが、都市・交通デザイン学科には、芸術文化学部の建築の授業を履修していて、模型づくりに慣れている人々もいるので、その人たちが初めての学生に教えていて、模型づくりもみんな問題なく進めることができていたように思います。都市・交通デザイン学科は、自分の興味に沿った様々なことを伸び伸びと学べる場所です。興味を持ってくれた高校生の皆さん！ぜひ一度オープンキャンパスを覗きにきてみてください。

山形 菜々子
(2018年入学)

自主プロジェクト (魚津中央通り名店街を楽しく楽しむプロジェクト)

私は「魚津中央通り名店街を楽しく楽しむプロジェクト」に所属し、パークレットのデザインや建物のリノベーションなど、地域住民の方々、担当教員の方々、プロジェクトメンバーと協力して行うまちづくりを進めてきました。

コロナ禍の行動制限により、コミュニケーションの機会が減少し、新しい環境や大学生活に不安を抱えている方もいるかもしれません。しかし、自主プロジェクトに参加することで学年やキャンパスを越えた人との繋がり、学生時代にしかできない挑戦や、実践的な経験の機会を増やし、より充実した学生生活が可能になります。ぜひ、都市・交通デザイン学科に入学し、思い描く学びと楽しみに満ちた学生生活を送ってください。



パークレット

土谷 輝薫
(2019年入学)

課外活動



激動の時代である令和。半年先の状況すら全くと言って良いほど見通せない世の中で、ただ「まちづくり」や「土木」という1つだけを学び、それだけを武器に社会の中で生き残っていくことはできないと思った僕は今、「教育×まちづくり」をテーマに、富山県氷見市を拠点として活動しています。氷見では主に、「高校生と地域をつなぐコミュニティ・スペース「ひみりべ。」」の開設を目指して動いています。全国どこでも同じ教育を受けるのは勿体無いと感じ、高校教育に少しでも「地域のエッセンス」を加えた、その地域らしい教育を行うことができれば、高校生が地元愛を持つことができ、大人になって「氷見に戻ってきたい」と思える瞬間を作ることにつながると考えています。ただ、いきなり高校教育を変えていくことはできないので、学校外の拠点として「ひみりべ。」の開設を第一目標にしています。まちづくりに関しては、実務経験のある教授方から様々な教えていただきながら学ばせていただいております。教育に関しては学外で学んでいます。樹海の如く先が見通せないプロジェクトではありますが、同学科の仲間や同じ富山大学の芸術文化学部の仲間、氷見市内に住む大学生や地域の人とともに協働で進めています！

酒井 健志
(2020年入学)

クラブ活動

私は富山大学男子バレーボール部に所属しています。部活動は月、水、金、土、日の週5日で活動しています。大学での部活はこれまでのものとは違い、様々なレベルの選手たちが集まっています。高校からバレーを始めた人や、全国大会経験者など多様な人が集まっていますが、皆で全国大会出場を目標に頑張っています。週5日も練習があると、課題やテストが大変になりますが、隙間時間を活用し、何とかうまくやっています。部活動の最大の魅力は濃い人間関係です。多くの時間を部活の仲間と共有するため、自然と仲は深まります。コロナの影響で、制約はありますが、皆楽しく部活動を行っています。



オンライン オープンキャンパス

原田 隼輔
(2019年入学)

2020年のオープンキャンパスの企画を通して、1年生の交流の場を作ることができました。オープンキャンパスとは入学を考えている皆さんに対して、この学科ではどのようなことを学べるかを紹介する場です。しかし、コロナ禍にあった2020年4月、5月はオンライン授業で、今までのように大学生活を楽しむことができませんでした。そんな中でもオープンキャンパスの準備を通してみんなで学科を紹介するという目標が、大学生活を楽しんでもらうきっかけになりました。都市・交通デザイン学科はどんな時でも大学生活を充実させることができる環境が整っていると思います。来年は皆さんがオープンキャンパスを作る側に来てくださることを願っています。



オンラインオープンキャンパスのコンテンツとして、総合型選抜の様子の再現を行っています。→



上出 梨央奈
(2018年入学)

就職活動

コロナ禍における就職活動では、主にマイナビやリクナビといった就活情報ツールを活用したり、先生や友人に相談したりして取り組みました。最初の頃はマイナビのwebセミナーに参加して、エントリーシートの書き方や面接対策を学んだり、各分野の先生方に企業の仕事内容について話を聞きに行きました。それに加えて、インターンシップや現場見学会に参加して、実際の仕事内容を体験することによって自分のやりたいことが見つけられました。そして、わからないことやエントリーシートの添削、面接練習まで先生が親身に対応してくれました。また、先生との対話を重ねるごとに、企業選びにおける軸がより明確になり、苦手であった面接でも自分の思いをしっかりと伝えることができ、無事、第一志望の企業から内々定を頂くことができました。

板澤 莉花
(2020年入学)

日常生活

都市・交通デザイン学科は、男子に比べて女子の人数が少ないことや、コロナの影響もあり、入学した当初は友達を作ることができず、かとても不安でした。しかし、4月のオリエンテーションや先生方が開いてくださったオンラインでの交流会などを通して徐々に友達を作ることができ、さらに授業でもグループワークや現場見学などを通して、学科内で活発にコミュニケーションを取ること、男女問わず友達を作ることができました。コロナ禍で部活やサークルなどの活動ができなかった中でも、学科内で仲を深めることができたのでとても充実していたと感じます。

